



## 一周年記念行事

### THE 1st ANNIVERSARY ISHIKAWA PREFECTURAL REHABILITATION CENTER BIRTHDAY FESTIVAL 《車椅子ウィーク '95》

期 間：平成 7 年 11 月 5 日 (日) ～ 11 日 (土)

内 容：●11月 5 日 (日) 午前 10 時～午後 3 時

【車椅子試乗会】

場所＝リハビリ庭園

●11月 11 日 (土) 午後 1 時～

【車椅子フォーラム '95】

場所＝大研修室

基調講演「車椅子の種類と工夫事例」

講師：沖 川 悦 三 先生 神奈川県リハビリセンター  
リハビリ工学士

日本リハビリ工学協会車椅子 SIG 代表

パネルディスカッション

岡 部 佐規一 先生 金沢大学工学部教授

荒 井 利 春 先生 金沢美術工芸大学助教授 ほか

●11月 5 日 (日) ～ 11 日 (土) の毎日

場所＝エントランスホール ほか

【車椅子スポーツ写真展】

【車椅子スポーツの紹介ビデオ上映】

【いろいろな車椅子展示】

【作業療法作品展】

【リハビリセンター一年のあゆみ写真展】

【リハビリ相談】

## 車椅子スポーツについて

最近、リハビリテーションにおいてADL（日常生活動作）の獲得はもとより、QOL（生活の質）の向上に注目がおかれるようになってきています。その中でハンディを持ちながらスポーツに取り組み、アクティブに活動する方が増えています。現在、日本で行われている障害者スポーツは約140種目といわれ、その代表的なものには水泳、陸上競技、車椅子テニス、車椅子バスケットボール、卓球、アーチェリー、スキーなどがあります。ここでは、車椅子に関連したスポーツをいくつか紹介しましょう。



### 【リハビリ工学技師】

障害を持つ方々の症状や希望に対して、医師・看護婦・理学療法士・作業療法士・言語療法士等医療スタッフと医療・福祉機器メーカーの間を通訳する役割を担う専門職員。

工学技術による機能の代行・補完をするテクニカルエイド（自立支援）機器を提案するほか、市販品・既製品に創意工夫による改造・改良を加えることや技術的・経済的理由による困難性を解決するオリジナル製品を研究開発することによって、自立度の高い生活の支援と介護量の軽減を実現。

### ◆陸上競技

- ・車椅子走：障害の状態に応じて距離（30m、60m、100m）やクラスが分けられタイムを競います。主に脊髄損傷の方が参加する100m走は20秒前後の記録で競われています。皆さんと比較していかがでしょうか？
- ・スラローム1：距離が110mで17の旗門（赤と白のポール）、スロープ、段、溝がある障害物走です。白いポールの間は前進、赤は後進を進みます。ポールに触れると2秒加算などのペナルティを受けます。トップレベルの記録は55秒前後です。



### ◆車椅子バスケットボール

基本的なルールは一般のものとは変わりませんが、膝上にボールを載せ3回以上車輪を駆動するとトラベリングとなります。また使用する車椅子にも制限があります。最も特徴的なことは、選手の障害の程度によって1～4.5の持ち点が定められ（重い障害ほど点が低い）5人の合計が13.5点を越えてはならないことです。また、より障害の重い方を対象として高さ1.2mのゴールを別に設置したツインバスケットも行われています。

### ◆チェアスキー

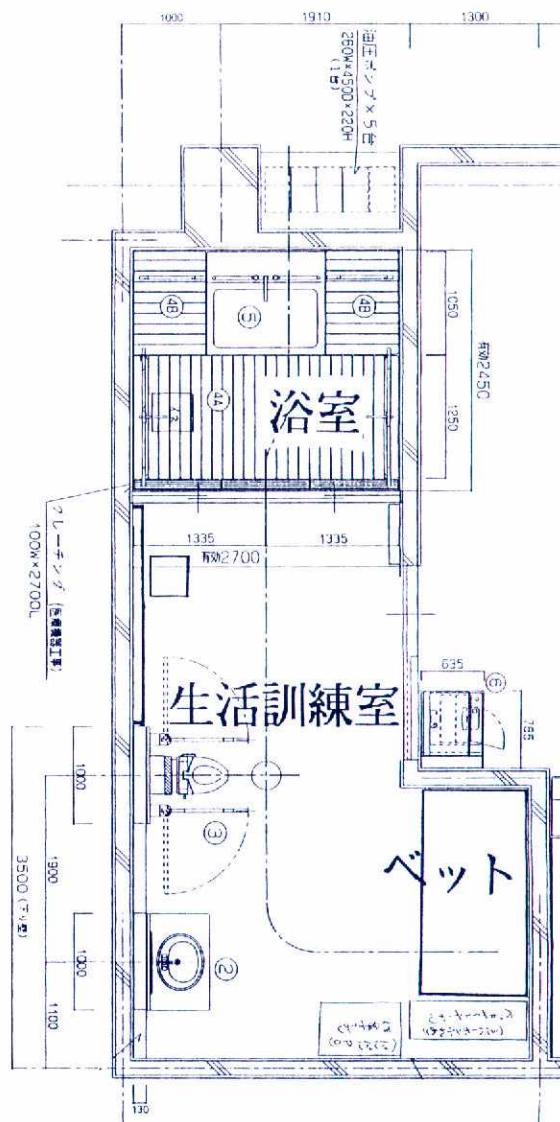
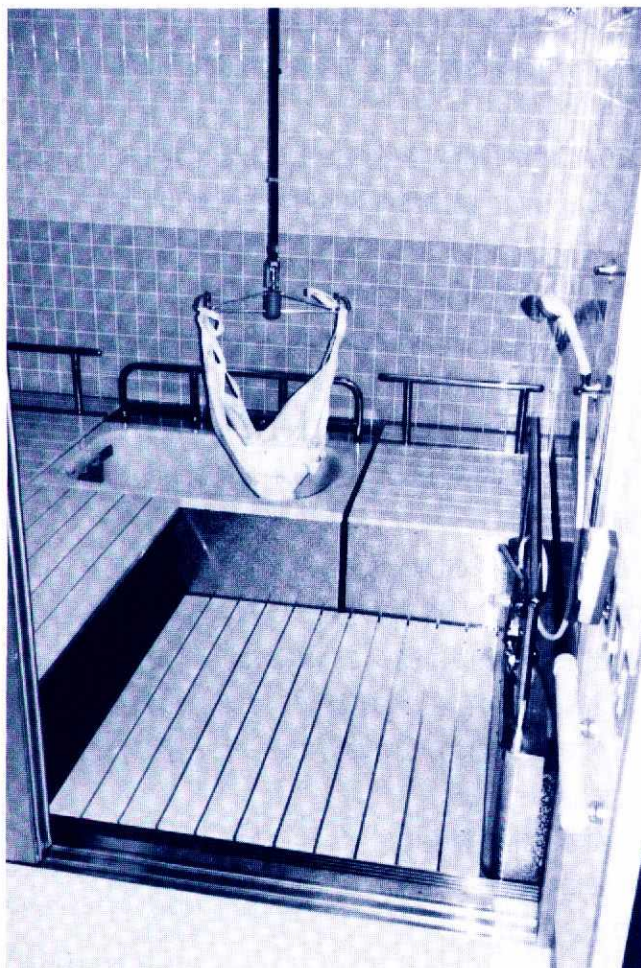
1枚のスキー板上に固定されたいす付きのフレームに乗り、体幹の前後傾と2本のアウトリガー（ストックに相当）の制動により雪面を滑降するのが一般的ですが、障害に応じて様々な工夫もなされています。わが国のトップレベルはリレハンメルパラリンピックにてメダルを獲得しています。また、健常者と同様バジテストも行われています。



どの競技もトップレベルの大会では、記録やランキングを競い合うまさにその道のスペシャリスト達が集まり、そのプレーには圧倒されます。皆さんも是非一度観戦&参加してみたいはいかがでしょうか。

## 自立度の高い生活をめざした日常生活訓練装置

日常生活訓練室の浴室は、入浴に関する一連の動作を、障害や既存の住宅の浴室に応じてシミュレーションできるようにしています。洗い場が左右二分割、浴槽の左右のスペース、そして浴槽と、5ヶ所がそれぞれ、脱衣室の床に対して0～550mm上下可動します。様々な場面を想定する事で、本人や家族が実際の入浴動作を検討したり、的確な住宅改造の確認の場として利用しています。



## —— 紀宮様の美しいお言葉 ——

当センターも1周年を迎え、初心者マークを外さなければなりません。そして、この夏忘れられない出来事がありました。

7月28日、紀宮清子内親王殿下が当センターを御視察のためご訪問なされました。

事前の準備打ち合わせが進むにつれ、職員および患者さんともども緊張の面もちで当日を迎えました。しかし紀宮様の暖かい笑顔、優しいお言葉で和やかになり、緊張しながらも皆晴れがましい気持ちでいっぱいでした。

理学療法室、作業療法室、言語療法室、自動車運転シミュレーション装置をそれぞれご覧いただき、そして多くの患者さんが紀宮様からあたたかいお言葉をいただきました。

紀宮様は腰をかがめられ、緊張している患者さんには、さりげなく腕に触れられて「どれくらいなさっているのですか」、ワープロで打った手紙を差し出した患者さんに「いただいてよろしいの……ありがとう」、調理訓練の患者さんたちに、「召し上がるのが楽しみです」、手芸をしている患者さんに「見せていただいてありがとう」、俳句を発声訓練している患者さんに「小林一茶ですね」、等々……その物腰、そして美しい日本語に私は夢ごちでした。

また「このいろいろな装置や道具は、ここに通っている方だけが利用できるのですか」と、当センターの地域リハビリ支援事業もご存じのようなご質問を受けました。もちろん「県民だれもが何時でも利用することができますようになっていきます」とお答え申し上げました。

お帰りになられる時は、患者さんや職員が、虹のモニュメントのエントランスホールに勢揃いしてお見送りしました。そこでは、杖歩行の患者さんが、車椅子の患者さんに最前列の場所を譲り、誰がとりたてて指示をしたわけでもないのに自然発生的にお見送りの人垣が整列しました。まさに宮様マジックでした。

そして、紀宮様は一人一人に「お元気で」「お体をたいせつに」「はやく運転できるようになればいいですね」とお声をかけられ、最後に玄関を出ていかれる時に、やさしくお手を振られると、思わずお見送りの皆んなからほほえましいどよめきがホール一杯にあふれ、感動の一場面でした。

わずか1時間の滞在でしたが、お帰りになられた後もしばらくは、患者さんも職員も顔を紅潮させいろいろな感想を語り、すばらしい出来事の余韻に浸っていました。

そして紀宮様はその存在、お言葉で、まわりの人々の心を揺さぶることができるすばらしいお方であったと感じたのは私一人ではないと思いました。

このような非日常の経験で心が救われることは何度でもいいものです。

